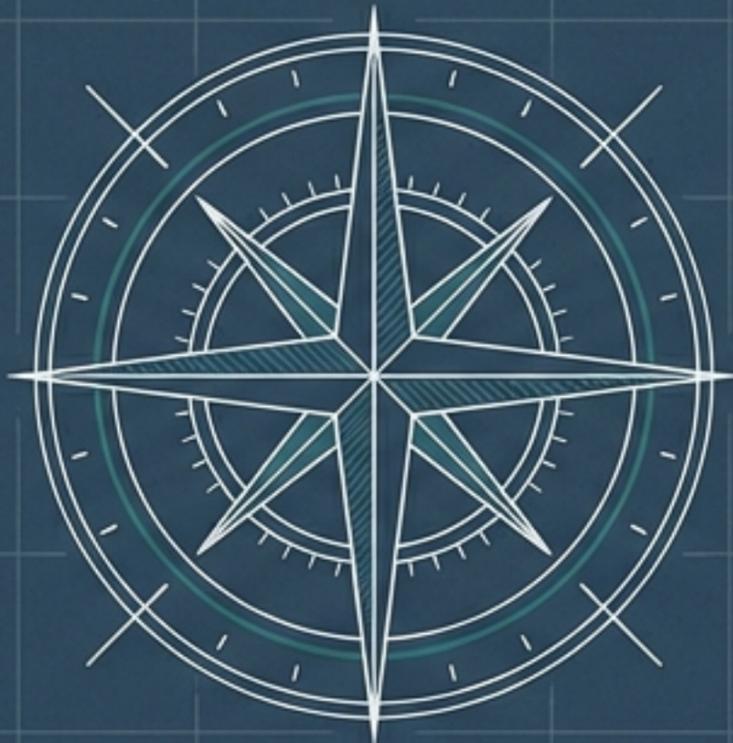
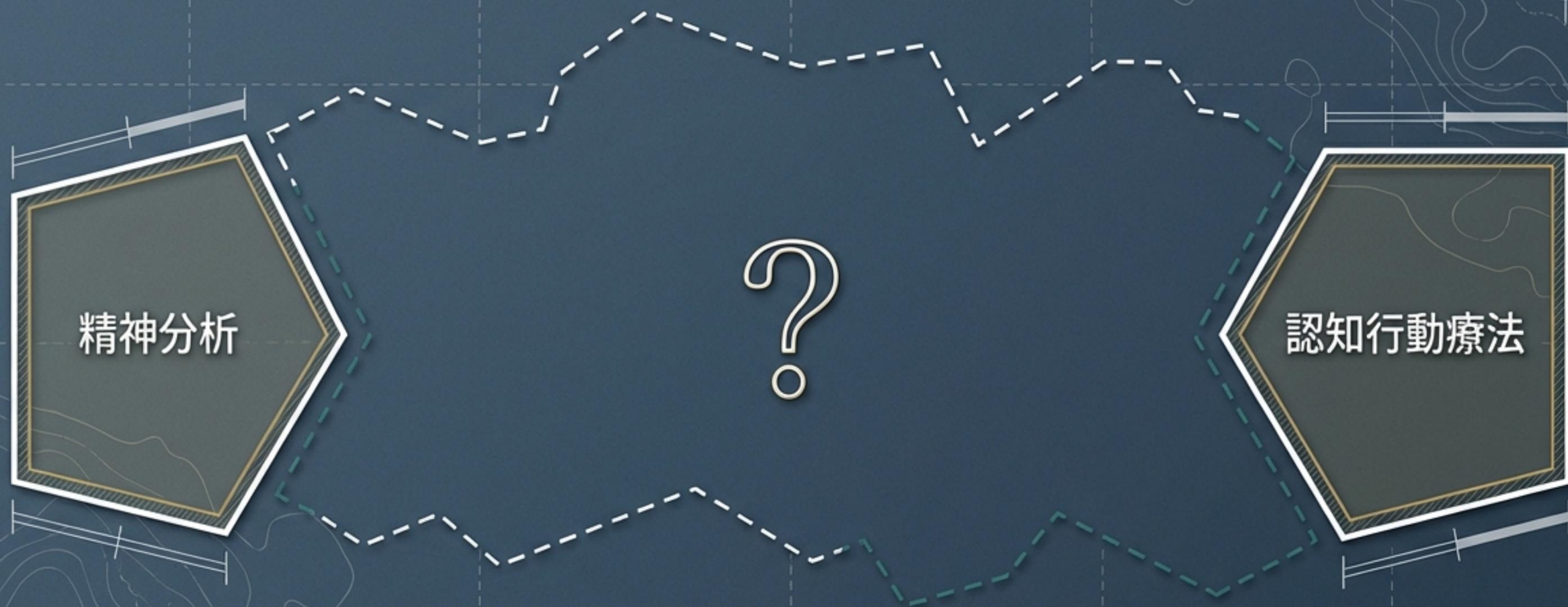


なぜ支持療法は学派にならなかったのか



精神療法史の空白を埋める「温存的精神療法」による理論的独立宣言

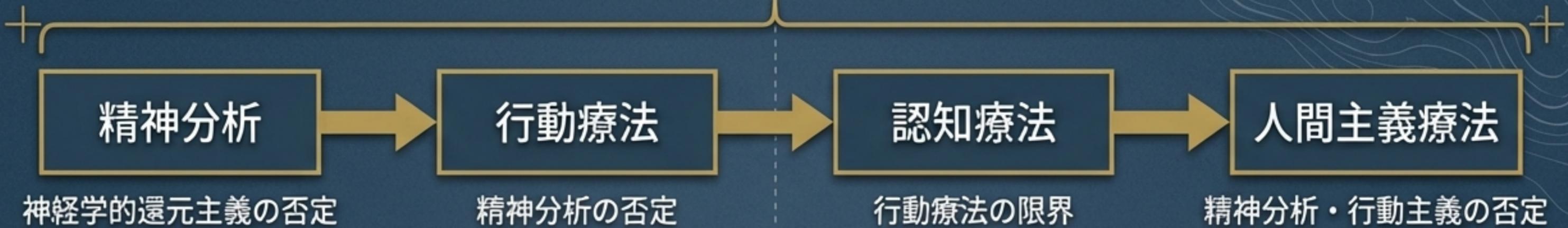
理論の弱さではなく、歴史的構造の問題



支持療法が学派にならなかった理由は、「理論が弱かったから」ではありません。
精神療法という学問の成立構造そのものに起因する、5つの歴史的必然でした。

理由1：精神療法は「革命」で発展してきた

既存理論の否定 → 新理論の登場（理論革命の歴史）

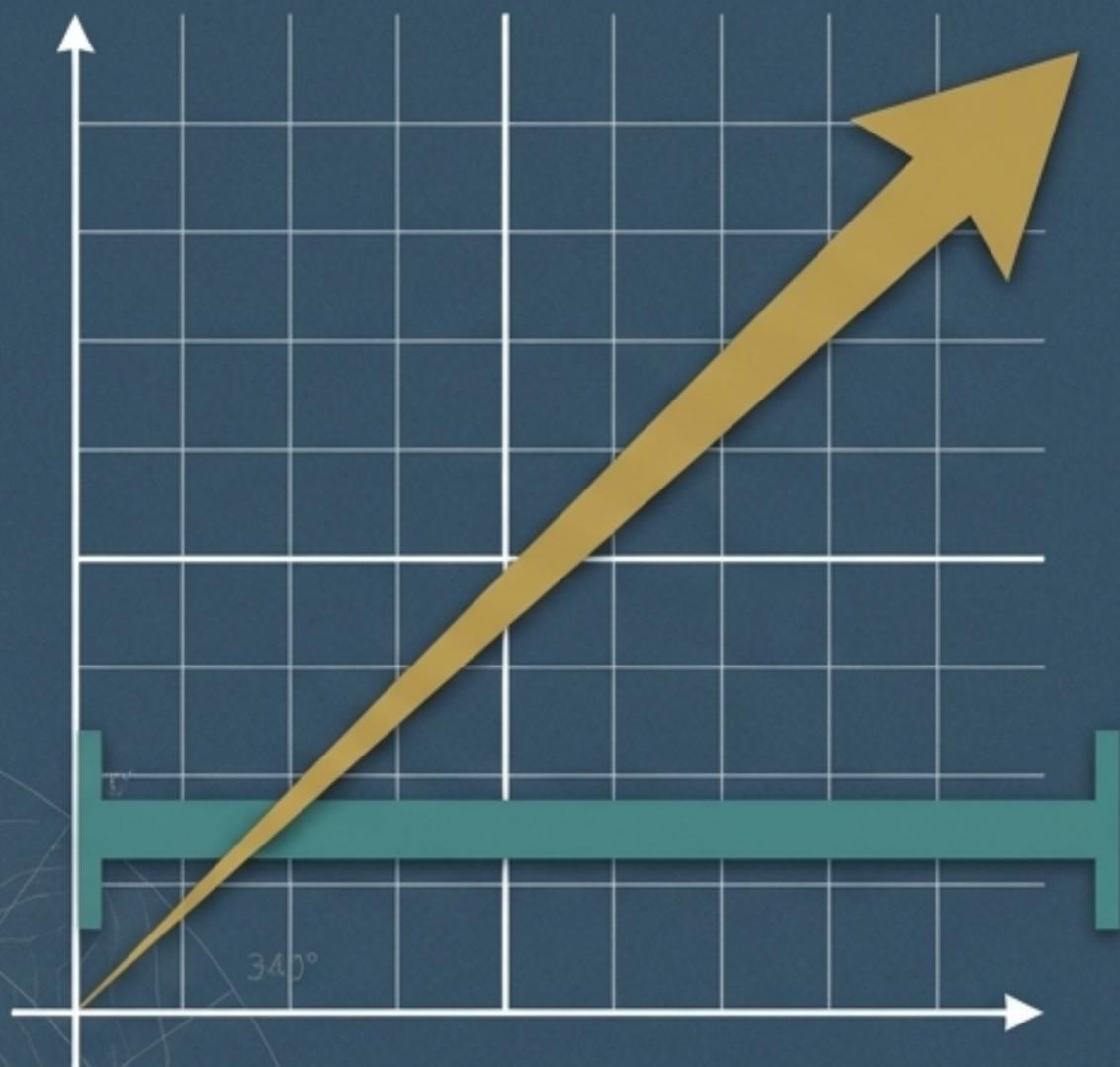


既存理論を否定しない
新しい人間観を提示しない
革命を起こさない

支持療法

革命の連鎖の外にいたため、学派として自己主張する契機が存在しなかった。

理由2：精神療法は「変化」を絶対的価値としてきた



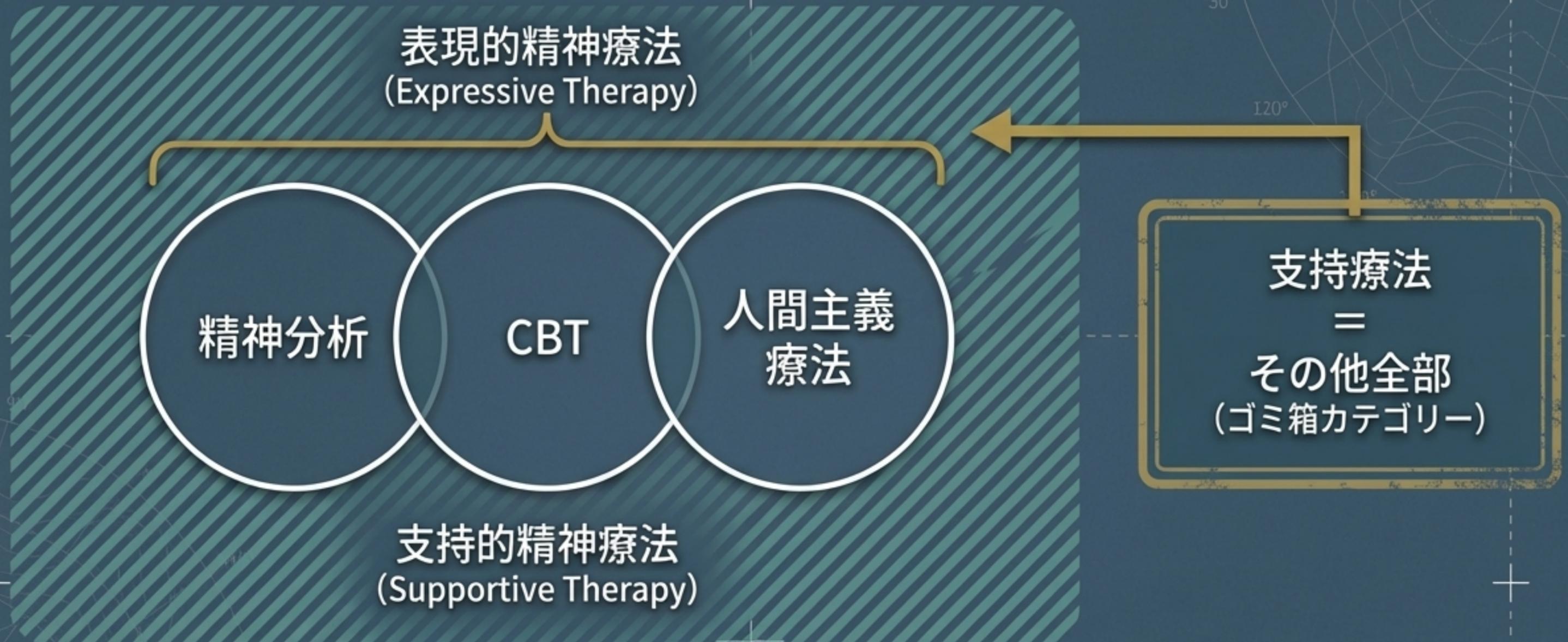
「変化の理論」
(無意識の洞察 / 認知の修正 / 自己実現)

「"変化しない治療"という誤解

「安定の維持」
(崩壊を防ぐ / 症状を悪化させない / 生活を維持する)

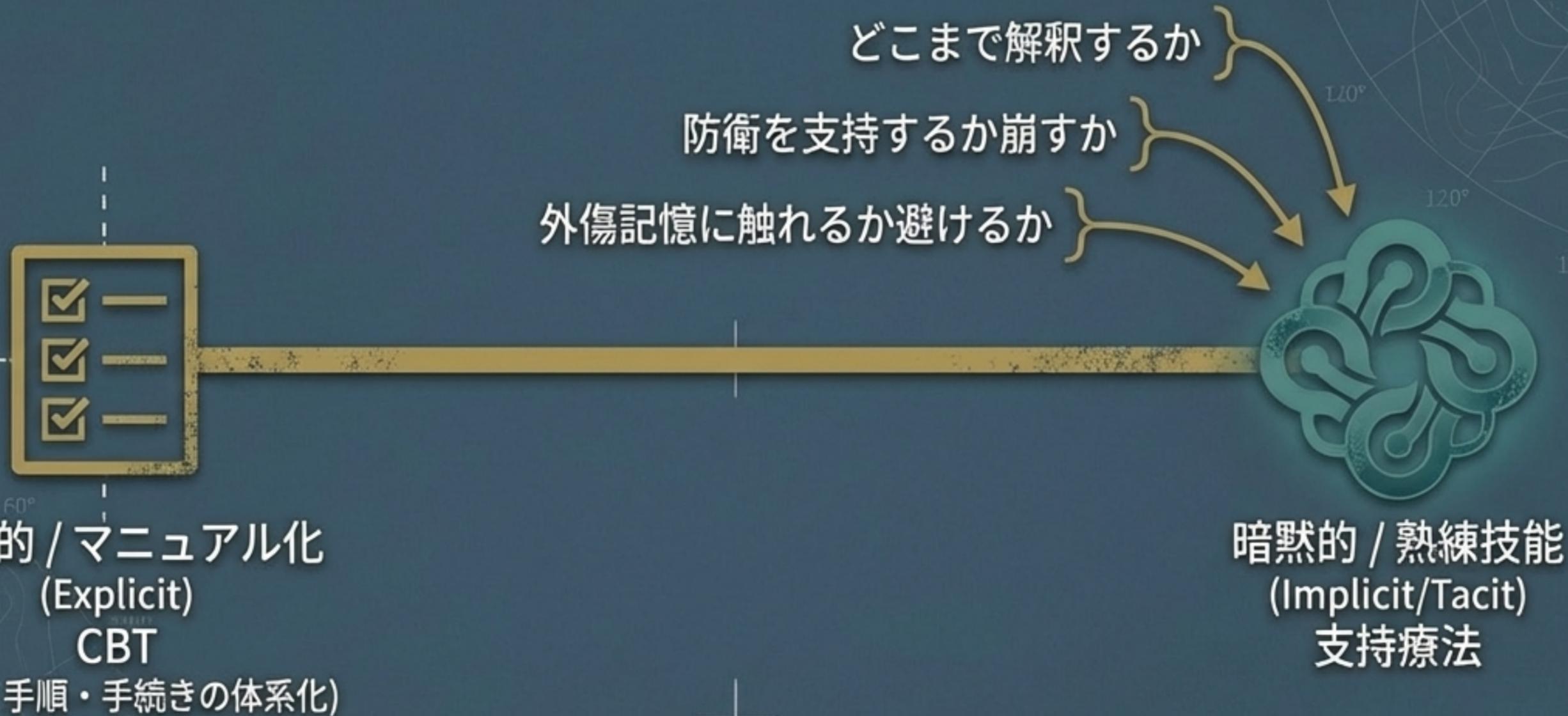
人格の「変化」を中心目標とする学問体系の中で、「維持・安定」は理論的評価を低く見積もられた。

理由3：支持療法は「残余カテゴリー」だった



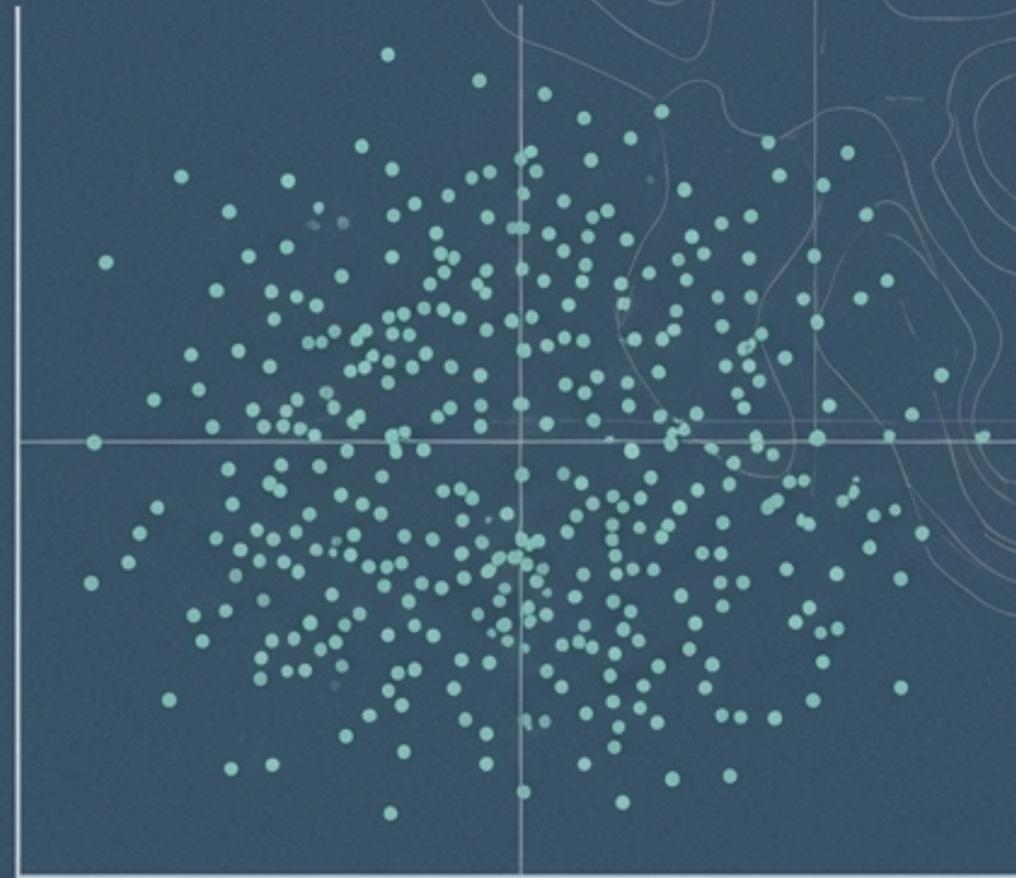
独自の理論としてではなく、「特定の学派に属さないものすべて」を放り込む器として扱われた。

理由4：支持療法はマニュアル化困難な「熟練技能」だった



臨床判断が高度で暗黙的であるため、研究・数値化が難しく、学派としての体系化が遅れた。

理由5：精神医学の権力構造と「普遍性」



全ての臨床医の自然な実践

創始者がいない

あまりに普遍的で、すべての臨床医が日常的に行っていたため、逆に誰の「理論」としても所有されなかった。

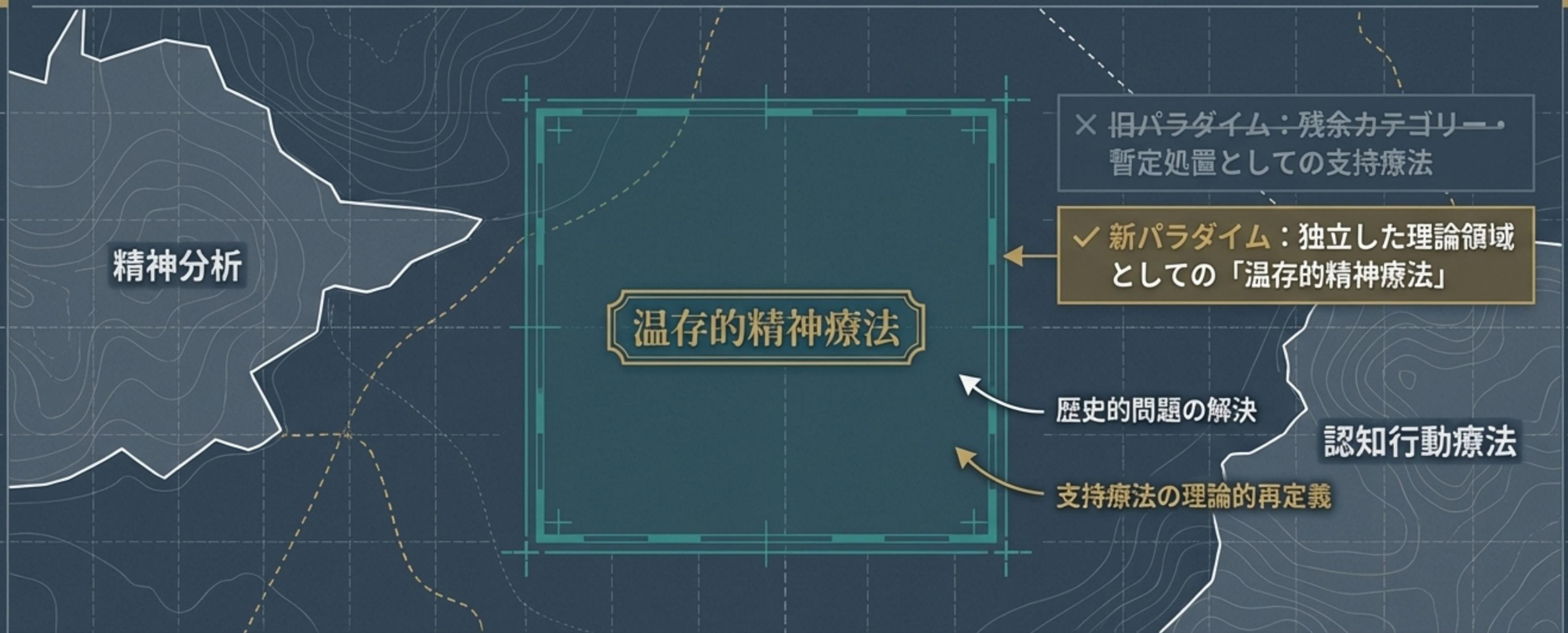
学派形成における構造的差異

比較次元	伝統的学派 (Psychoanalysis, CBT, etc.)	支持療法 (Supportive Therapy)
発生	既存理論の否定 (革命)	既存の否定なし (非革命)
核心価値	人格の「変化」と「洞察」	状態の「安定」と「維持」
分類	定義された独立カテゴリー	その他全部の残余 (ゴミ箱) カテゴリー
方法論	手順の明示的マニュアル化	高度な臨床判断を伴う暗黙的熟練技能
権力構造	創始者を中心としたピラミッド型	創始者不在の普遍的・分散型実践

小結：支持療法のパラドックス

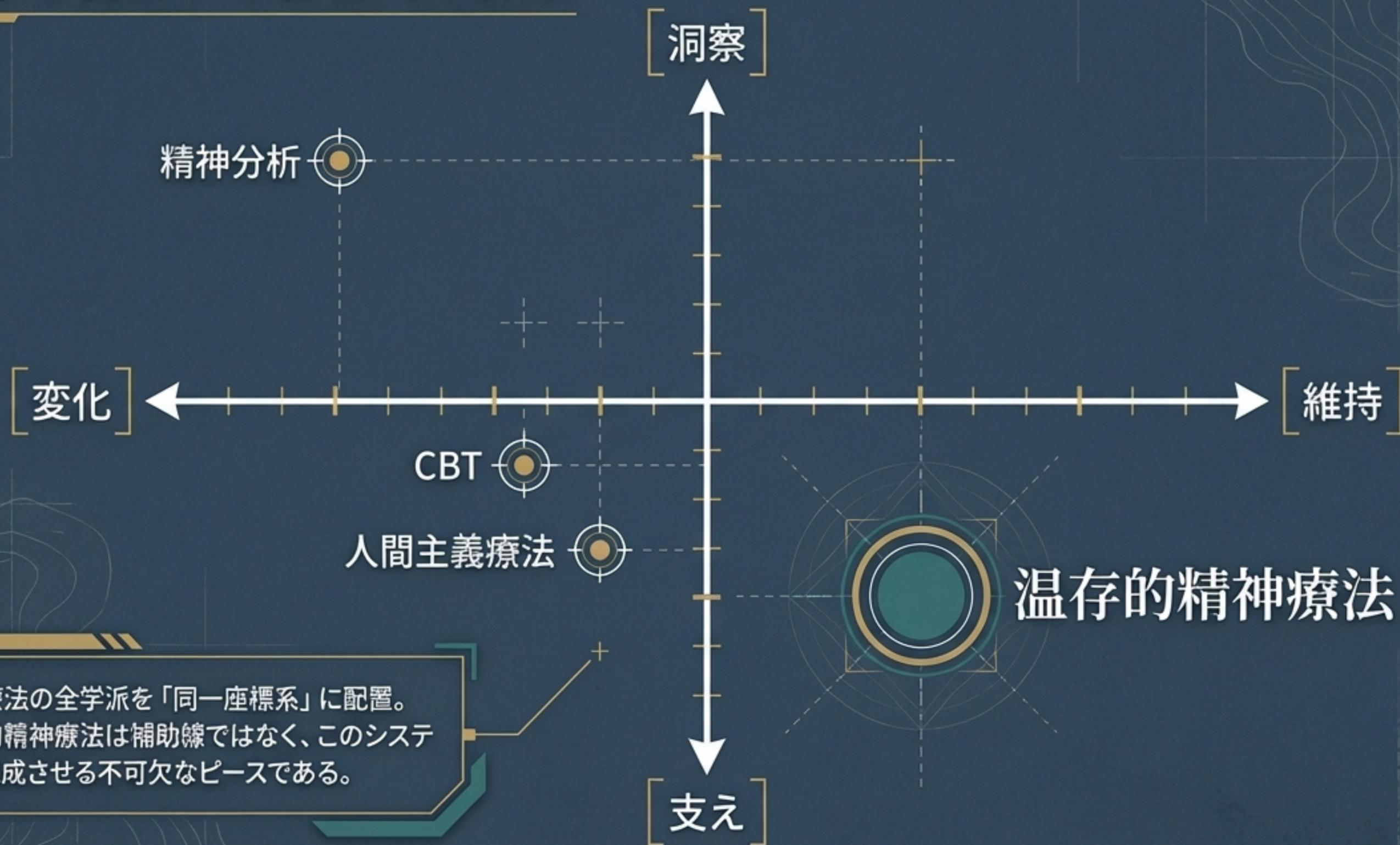


理論的独立宣言：「温存的精神療法」



「温存的精神療法」は、精神療法史において長く放置されていた空白地帯に
明確な座標を与える、理論的独立宣言である。

全学派を統合する普遍的座標系



精神療法の全学派を「同一座標系」に配置。
温存的な精神療法は補助線ではなく、このシステムを完成させる不可欠なピースである。